

終わりの見えないコロナ禍の中で



医療法人社団 鶴田友会 介護老人保健施設メイイト鶴翔苑 理事長

理事 鶴田 克家

クラスターが発生し、職員、入所者全員が感染したという事例がありました。

2020年2月熊本県で初めて新型コロナウイルス感染症が報告されて、一年半が過ぎました。同年4月には全国に緊急事態宣言が発令され、しばらくは巣籠もり生活が続きました。そのころは漠然と1年くらい感染は収まらないのかなと考えていましたが、未だ終わりの見えない状況です。最近ではデルタ株と言われる変異種が猛威を振るい、熊本県でも連日百人単位の新規感染者の報告がなされています。

当初から、介護老人保健施設を含めた介護施設でのクラスターの報告は続いています。恐らく皆様方の施設職員、入所者の殆どが、現在ワクチン接種は完了していると思います。が、昨今の変異株の感染力の状況を考えると決して楽観視できるものではありません。当初は95%程度の予防効果があるとされていたファイザー製のワクチンも、最近では50%を切っているという報告もあります。実際、当施設のすぐ近くにある在宅系の介護施設で

要介護者が入所する我々の施設には、基礎疾患のない方はほぼ皆無です。また認知症があり、マスク着用、手洗い、黙食などの感染対策が十分に出来ない方も多数いらっしゃいます。そんな中でクラスターが発生すれば感染収束は非常に困難であることは想像に難くありません。まずは施設内にウイルスを侵入させないことが最も大切ですが、施設で働く職員のストレスは計り知れないものでしょう。同時に面会制限により、入所者とご家族にも

大きなストレスがあると思います。オンライン面会などを行っても、やはり実際に会って話して、触れ合うのとは訳が違います。ご家族が外から施設を見上げて窓越しに入所者と電話で話している姿をよく見かけます。中には涙を流しているご家族、入所者もいます。そういう姿を見ると、非常に申し訳ない気分になります。入所者を守るためには仕方ないと心を鬼にするしかありません。

当施設では超強化型老健での算定を行っ

ていますが、コロナ禍により、入所、退所がスムーズに行かずに要件を満たすことが困難となっております。特にコロナ禍の中、在宅復帰に消極的なご家族が増え、在宅復帰率が下がる傾向にあります。また超強化型老健の要件でもある入所前後訪問指導、退所前後訪問指導もコロナ禍の影響で困難となっております。実際に昨年は要件を満たせずに1ヶ月超強化型を算定出来ませんでした。超強化型老健とは関係ありませんが、試験外泊や外出も出来ず、不安の中、在宅復帰を支援せざるを得ない状況も発生しています。

世界的な災難です。期待していたワクチンも今のところ我々の生活を元の状態に戻してくれる程の効果はありませんでした。私達は施設に関わる方々の安全を守るため、一人一人が自覚を持って行動し、感染抑制に努めていくしかありません。そして、不幸にもクラスターが発生した時に備え、できる準備をしていきましょう。

コロナ禍が1日でも早く収束し、通常の生活が戻る事を祈念しています。

